



関中学校だより

第12号 令和2年2月28日

ホームページアドレス <http://www.seki-j.nerima-tky.ed.jp/>

令和元年度 より良い学校づくりアンケート 保護者・生徒・教員の平均値の比較

実施日 令和元年12月

対象者 保護者(342人 回収率69.8%) 生徒(469人 回収率95.7%) 教員(18人)

点数振分 そう思う 4点、 ややそう思う 3点、あまりそう思わない 2点、そう思わない 1点

設問	評価項目	平均値		
		保護者	生徒	教職員
設問1	関中は、教育方針や重点目標を家庭に伝えている。			3.7
設問2	関中は、教育方針や重点目標を達成すべく努力している。	3.2		
設問3	教職員は、互いに協力していると感じる。	3.1	3.5	3.4
設問4	教員は、子どもたちのために意欲的に教育活動に取り組んでいる。			3.6
設問5	教員は、学校で起こった諸問題（いじめ）について迅速に適切に対応している。		3.5	3.7
設問6	関中は、校舎内外の施設・設備の安全管理を適切に行っている。	3.1		3.6
設問7	関中は、図書室やコンピュータ室などの施設・設備を活用している。	3.0		3.6
設問8	関中は、教室や廊下、特別教室などの環境整備が行き届いている。	2.9		3.5
設問9	教員は、授業をわかりやすく工夫し教えている。	2.8	3.6	3.7
設問10	教員は、個々の生徒の学習指導に熱心である。	2.8	3.4	3.6
設問11	教員は、学校の様子や学習状況を保護者に伝え、子どもの学力等を適切に評価している。	3.0		3.6
設問12	通知表のつけ方を理解している。		3.6	
設問13	教員は、道徳の時間を大切に、道徳の指導に力を入れている。	2.8	3.6	3.2
設問14	生徒は、ハートタイム（朝読書）に積極的に取り組んでいる。	3.3	3.6	3.5
設問15	生徒は、学校行事を楽しみにし、積極的に参加している。	3.4	3.6	3.7
設問16	生徒は、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに熱心である。	3.3	3.5	3.4
設問17	関中は、集団生活をする上での基本的な生活習慣・善悪の判断・社会生活のルールなどが身に付くように指導している。	3.2		3.5
設問18	関中は、望ましい勤労観や職業観を育てる指導を行っている。	2.9		3.2
設問19	関中は、生徒の健康・安全・食に関する指導を適切に行っている。	3.1	3.6	3.4
設問20	生徒は、充実した学校生活を過ごし、成就感や達成感を得ている。	3.1	3.4	3.5
設問21	関中は、家庭との連絡等意思疎通を図るよう努力するとともに、保護者がいつでも相談できるようになっている。	3.1		3.4
設問22	関中は、必要に応じて地域の意見や要望を取り入れる体制ができている。			3.6
設問23	関中は、授業参観など学校を公開するための努力をしている。	3.1		
設問24	授業公開・学校行事・保護者会等には、（積極的に）参加している。	2.9		3.3
設問25	学校から配布された資料を、家庭で子どもの指導に生かしている。	2.7		
設問26	関中の教育活動に、保護者として支援・協力している。	2.9		3.5
設問27	あなたは、あいさつをしたり、学校のルールを守ったりしている。		3.7	
設問28	関中は、生徒の悩みに応える適切な指導を行っている。あなたは、いじめや仲間はずれをせず、相手の立場を尊重している。	3.0	3.7	3.7
設問29	あなたは、将来の進路（夢や希望）について考えている。		3.3	
設問30	関中は、小中一貫教育を、関町北小、石神井台小とともに進めている。	3.1		3.4

アンケートの分析と方策

- * 学校運営・施設管理・保護者地域連携に関して
設問1・2・3・6・7・8・21・22・23・24・25・26・30
全体としては概ね高評価である。
施設等に関しては、次年度に向け図書室やパソコン室などの活用方法の検討が必要であり、教室・廊下・特別教室など環境整備にその都度対応できるような体制を作る。
トイレの洋式化や体育館の空調設備の設置は、練馬区で予算化され計画的に実施されています。
保護者地域連携に関しては、学校側からの情報提供の内容を精査するとともに、資格試験の情報や学校公開に関するものなど適宜発信していく。

- * 学習指導に関して
設問4・9・10・11・12
授業に関しては、わかりやすく工夫して教えているなどの項目で「わからない」という回答も多くあった。次年度に向け積極的に情報発信するだけでなく、学校に対して足を運びやすくする工夫が必要となる。学校公開日の設定方法や内容の吟味などを行っていきたい。
個々の生徒に対する学習指導に対して教員、生徒、保護者と低くなる傾向もあり、個別の対応ができるように次年度から、地域未来塾など開設し、生徒の居場所づくりを行なっていく。

- * 道徳・進路・特別活動に関して
設問13・14・15・16・17・18・29
全体的に平均値が高い。
活動内容は個人が中心となってできるものや集団として協力し合っているものがあげられている。
生徒は、これらの諸活動を通じて達成感や協力して成し遂げることの楽しさ・苦しさなどを経験している。今後も、生徒が主体となった学校行事や委員会活動などを充実させていく。
道徳や勤労観などの内容には、教員と保護者で差が開いている。学校において実際にどのような指導が行われているのかが、しっかり伝えられておらずわからないという意見も多くあった。
新学習指導要領でも、望ましい勤労観の育成などキャリア教育を重視している。次年度からキャリア・パスポート(小学校・中学校・高等学校で継続活用する学習資料)が導入されることもあり、学級活動、道徳科、行事などの様々な機会を通じて、社会の形成者としての望ましい勤労観や職業観の育成を図っていく。

- * 生活指導に関して
設問5・19・20・27・28
全体的に平均値が高いが、個々の生徒の対応などに関しては保護者の数値が低くなっている。これは、学校での様子と家での様子に乖離が見られるためであり、学校としては次年度に向け生徒からの信頼をより一層得られるように、研修等に積極的に参加し研鑽を積む。さらにスクールカウンセラーや心の相談員とのより緊密な連携体制を構築する。
いじめは、絶対に許さないという姿勢で教職員一丸となっていじめ撲滅に取り組んでいく。
生活指導部を中心として、月毎の生活目標を設定し、生徒主体となって活動できる体制も併せて構築する。

- * その他
女子のスラックスに関して
大きく謳ってはいませんが、相談等があれば対応できるように体制は整えてあります。

図書館の活用に関して

図書館の開放日を増やすなど検討する。生徒の主体的な学びに対応できるようなレイアウトなどの検討をはじめ、出来るところから着手していく。各教科の調べ学習に対応できるように、教科担当と連携し蔵書を増やしていく。